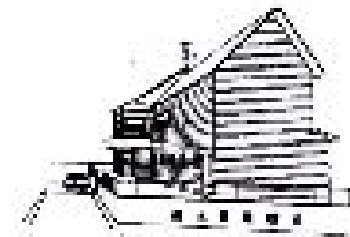


<今朝の聖書から> 三要文という言葉が聞かれたことがあるでしょうか。聖書の中の最も重要なもの。“主の祈り(マタイによる福音書 6:9~)”と、今朝の“十戒(あるいは十誡)、“じっかい”と呼ぶこともあります)および初代教会からの最も基本的な信仰告白である“使徒信条”のことで、す。“信仰問答書”の多くは、これに“洗礼”や“聖餐”などの礼典に関する説明を加えて、キリスト教信仰を説明しています。この十誡には目的があって、20:20に“恐れてはならない。神はあなたがたを試みるため、またその恐れをあなたがたの目の前において、あなたがたが罪を犯さないようにするために臨まれたのである”とあるとおりです。ずいぶん厳格で恐怖に満ちた神様のようにも思えますが、罪を犯さぬことが目的であり、“恐れる者”が何も無い時の、あるいは“恐れる者”が、財や権威に属するものなど、勝手に作り上げられてしまった時の不幸について語っておられるのです(詩編 111:10に“主を恐れることは知恵のはじめである。これを行う者はみな良き悟りを得る。主の誉は、とこしえに、うせることはない”とある通りです)。十誡の中をちょっと見てみましょう。20:11に“主は六日のうちに、天と地と海と、その中のすべてのものを造って、七日目に休まれたからである。それで主は安息日を祝福して聖とされた”と安息日=聖日の目的を記していますが、同じく十誡が記録されている、申命記では5:15に“あなたはかつてエジプトの地で奴隷であったが、あなたの神、主が強い手と、伸ばした腕とをもって、そこからあなたを導き出されたことを覚えなければならない。それゆえ、あなたの神、主は安息日を守ることを命じられるのである”とあります。記録間違いでしょうか? そのように読むべきではないでしょう。読み聞く人が理解できるように、すなわち私達が一番わかりやすい方法で、同じことを教えておられるようです。そして今、私たちは“安息日”を七日の第一の日とし、“主の恵”と“復活の主”を記念するために、この十誡を確認しているのです。“わたしを愛し、わたしの戒めを守るものには、恵みを施して、千代に至るであろう”と20:6にあります。申命記4:42では“意図してでなく、以前から憎しみを抱いていたのでもないのに、隣人を殺してしまった者をそこに逃れさせ、その町の一つに逃れて生き延びることができるようにした”と“逃れの町”の規定もあります。栄光の神は、今やキリストにおいて、天地創造の時から、裁きの神ではなく、信仰者の救い主なのです。

週報

2009年 9月 27日



伝えよう 救い主を
迎えよう 主の民を

日本フリーメソジスト
清水草薙キリスト教会

牧師 村上 定幸

ユース礼拝	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル一会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈禱会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	http://kusanagi.church.jp/	

〒424-0885

静岡県清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail grace@big.jp